

GREEN ニュース

行動する環境アドバイザーの会報

第98号 2024

環境アドバイザー連絡協議会

第13期代表 井上金治
令和6年11月 発行
創刊平成5年7月16日



群馬県高山村の田園風景の中に、現代米と古代米の稲の苗をボランティアの方々の手で田植した「田んぼアート」。道の駅「中山盆地」が最高のビュースポット。来年の作品に今から胸が高鳴る。

広報委員 山下由紀子

群馬県環境アドバイザーの登録状況（2024年11月8日現在）

第13期（登録期間：2024年4月1日～2027年3月31日）の登録者数は、更新者、新規登録者を含め、合計296名です。自然環境部会164名、温暖化・エネルギー部会125名、ごみ部会95名、広報委員会38名が登録し活動されています。

【目次】

- P2 環境政策課からのお知らせ
- P3 外来種問題について
「量り売り」からごみ問題を考える（ごみ部会）
- P4 動き出しました（自然環境部会）
温暖化・エネルギー部会の活動状況
- P5 エシカル消費とエシカル投資・グリーン投資でストップ地球温暖化!
- P6 環境フォーラム2024
- P7 金山カラタチ沢整備活動
- P8 エコ・クッキングセミナーの開催報告
編集後記

群馬県環境情報サイトのURLが変わりました

2023/10/1～



<https://www.pref.gunma.jp/site/eco/>

ECO ぐんまの X（旧ツイッター）をフォローしよう！





環境にやさしい買い物スタイル普及啓発活動への参加者募集

群馬県 環境森林部 環境政策課 環境政策係

群馬県では、消費者団体・事業者・行政（県及び全市町村）で組織する群馬県環境にやさしい買い物スタイル普及促進協議会を組織し、レジ袋の削減を始めとするプラスチックごみの削減や食品ロスの削減等を通じた低炭素・循環型社会の構築を目指しており、一緒に活動する店舗を支援しています。

※事業の詳細や過去の取組についてはこちら → <https://www.pref.gunma.jp/site/eco/501639.html>

環境省が行った一般廃棄物（ごみ）の排出及び処理の状況等の調査結果（令和4年度）によると、本県の1人1日当たりのごみの排出量は966gであり、都道府県の中でワースト8位の多さです。（全国平均は880g）

また、消費者庁が行った「食品ロスによる経済損失及び温室効果ガス排出量の推計結果」（令和4年度）によると、食品ロスによる経済損失は国民1人1日当たり88円であり、これは毎日みんなでおにぎり1個分のお金を捨てている状態です。

そこで、県内各地の小売店（スーパーマーケット）の店頭において、食品ロスの削減等を呼びかける啓発活動を行いますので、ご協力いただきますようお願いいたします。啓発活動の予定は次のとおりです。

表. 環境にやさしい買い物スタイル店頭啓発活動の予定（2月分）

地域	実施店舗	実施日時（2月）
中部	アピタ前橋店（けやきウォーク前橋）	3日（月）11:00～12:00
	ベルク伊勢崎寿店	4日（火）11:00～12:00
	ベイシアこもち店（渋川市）	5日（水）11:00～12:00
	フレッセイ吉岡店	6日（木）11:00～12:00
西部	アピタ高崎店	10日（月）11:00～12:00
	コープぐんま藤岡店	12日（水）11:00～12:00
	ヤオコー富岡店	13日（木）11:00～12:00
	ベイシア安中店	14日（金）11:00～12:00
吾妻	ヤオコー中之条店	17日（月）11:00～12:00
利根沼田	ベイシア沼田モール店	18日（火）11:00～12:00
東部	ヤオコー桐生相生店	20日（木）11:00～12:00
	J Aファーマーズブレイス（太田市）	19日（水）11:00～12:00
	とりせん富士見町店（館林市）	21日（金）11:00～12:00
	ベイシア大間々店（みどり市）	26日（水）11:00～12:00
	カスミ大泉店	27日（木）11:00～12:00
	フレッセイ板倉店	25日（火）11:00～12:00

※啓発活動への参加の流れについて

- ①12月後半頃、当係から募集案内を連絡しますので、参加を希望する日時をご回答ください。
- ②参加者確定後、当係から詳細について連絡しますので、ご確認ください。
- ③当日は、行政職員や他消費者団体員とともに、店舗に訪れた方に対して食品ロスの削減等を呼びかけるとともに、啓発チラシやグッズを配布していただきます。

※本件はボランティア活動の一環のため、謝金や交通費の支給はありませんのでご容赦願います。

※10月及び11月にも同様に実施しており、ご協力いただきました皆様には感謝申し上げます。

外来種問題について

副代表 田中和夫

外来種（外来生物）と言えばセイタカアワダチソウを思い浮かべる人は多いでしょう。確かに空き地などに群生しているのを見るとその生命力は驚異的にも感じます。数十年前には日本中が占領されるのでは？と言われたほどです。しかし、最近ではむしろススキが勢いを盛り返している様に見えます。また以前より小型化したようにも。これには色々な原因が考えられますが。

また最近では鯰は元来関東以北にはおらず、関西から持ち込まれた「国内外来種」であると言われていています。更にナズナやカタバミなどのなじみ深い草は記録にはない「史前外来種」とも言われています。在来種に対する悪影響などにより「要注意外来生物」や特に排除すべき「特定外来生物」、「侵略的外来種ワースト100（植物は26）等が法令で定められています。

特定外来種の代表的な物はアレチウリ、オオキンケイギクなどでアレチウリは嫌われていますがオオキンケイギクはキバナコスモスに似た花で庭に植えている人もいます。キショウブやタカサゴユリも一見きれいなので生えても排除しない人が多いようです。ホテイアオイ（水草）なども。

オオバクサやハリエンジュ（いわゆるアカシア）も先の「ワースト100」に入っています。また法的な規制はないようですが、驚異的な繁殖力で河川敷などを中心に猛烈に増えているニワウルシ（シンジュ）も駆除する方が良いと思います。

一方、外来種であっても日本の自然に溶け込み昆虫の食草になったり蜜を提供するような物は100%排除する必要もないのでは？とも感じます。環境アドバイザーである我々は更に勉強し周囲に知らしめる必要があるのではないかと考えます。

「量り売り」からごみ問題を考える

ごみ部会（前橋地区） 高橋照代

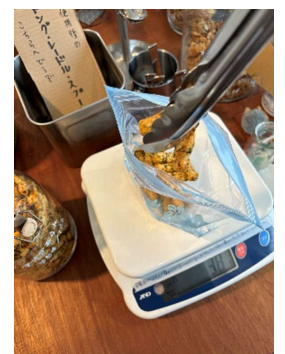
9月19日（木）、部会員の栗原さんが経営されている食材量り売り店舗「オクトブルーム octobloom」（前橋市六供町）の見学会を行いました。

静かな住宅地の中にたたずむ店舗に入ってみると、木材がふんだんに使われ優しく落ち着ける空間が広がり、中央の大きなテーブルの上には、ガラス瓶に入れられた食品がたくさん並べられています。

食品の他、食器用洗剤やシャンプーなど生活用品も販売されていて、取り扱っている商品はすべて、体にも環境にも優しいオーガニックや自然由来のもので、エシカル消費にも配慮した商品が並んでいます。

お買い物の際には、持参したタッパーや保存袋などに、欲しい商品を必要な分だけグラム単位で計って購入するシステムで、買いすぎから生じる食品ロス削減の効果だけでなく、商品包装で使われるプラ容器類を減らすことができる取り組みだと実感しました。

欧米では昔からスーパー等で量り売りの商慣習が取り入れられており、日本でも「欲しい分だけを買う」という消費行動がさらに広まれば、ごみ問題を解決する一歩につながる感じたひと時でした。





動き出しました

自然環境部会長 国安俊夫

140名という3部会の中では最大の登録者がいる部会として、多様な部会員の関心事や自主性を生かした活動を行いたいと考えた。このためまず、6月12日に県より登録者名簿を入手し、17日にメーリングリスト（以下MLと記す）を立ち上げメール登録者107名を対象に参加を募集し59名の方がメンバーとなっている。併せて関心のあるテーマ及び部会の開催方法に関するアンケート調査を19日に実施したところ37名より回答があった。

また、7月の定例会から遠方の部員にも配慮し、Zoom併用で開催することとともに、参加できなかった部員向けに議事録を作成しMLで情報共有するとともに、県からの定例文でも流していただいた。なお、会場は使用料が無料かつWi-Fiが使える事という条件から前橋市内のMサポを利用し、9月までは毎月開催し、毎回20名弱の参加者があった。

更に、群馬県の出前なんでも講座の制度を利用した学習会を、第1回は9月28日に実施し、第2回目を12月15日に開催することになっている。また、30by30自然共生サイトの現地視察の第1回目を10月11日に、また第2回目を11月4日に行った。なお、学習会や現地視察は部会員だけでなく、広く環境アドバイザーであればだれでも参加できる事とした。

このようにとりあえず部会活動は動き始めたが、MLメンバー以外の部員との情報交換や意見反映をどうするか、アンケートで多くの方から関心があると回答のあった「ぐんまの自然環境の現状を知る学習会」や「自然調査・モニタリング活動」等の活動着手方法、学習会や現地視察の結果をどの様に今後の活動に結び付けていくのか、当初夢想していたチーム活動形式も実現していないなど課題は沢山残っているのが実情である。



第1回自然共生サイト
現地視察風景



アサギマダラが
訪れてました



温暖化・エネルギー部会の活動状況

温暖化・エネルギー部会長 本多洋治

13期の新役員体制も決まり、部会活動もスタートいたしました。今期の活動方針や活動計画について決定していなかったことから、9月7日に開催した定例会において活動方針等が正式決定されました。

今期のスローガンを、“**活動の輪を広げ、温暖化防止に協働して取り組もう**”と“**省エネ、創エネを知り、自ら行動していこう**”という2つといたしました。この2つのスローガンは、部会員相互の連携を強め、協働して温暖化防止の活動に積極的に取り組んでいこうとするものです。また、活動方針として、“**最新の知見を含めた省エネ、創エネ知識および実践方法等の普及啓発**”**「部会員自らの知識を深める活動の実践**”**「部会員が参加しやすい部会づくり**”といたしました。この方針に基づいて、今期の活動を進めていきたいと考えています。

今年度の活動として、7月20日に「水素発生実験・温泉活用による水素製造の可能性に関する勉強会」を実施し、群馬県における温泉を活用した水素製造の可能性について知ることができました。また、9月21日には、群馬県地域環境学習事業として、講演会「**エシカル消費とエシカル消費・グリーン投資でストップ地球温暖化!**」、ワークショップ「**脱炭素まちづくりカードゲーム**」を行い、市民・行政・事業者が一体となって温暖化防止に取り組む必要性について再認識することができました。



水素発生実験の様子



谷川岳ツアーの様子

さらに、公共交通実証ツアーとして、みなかみ町谷川岳ツアー(8/31)を実施し、今後、横川めがね橋ツアー(11/30)を予定しています。また、環境保全の先端的な取り組みを行っている施設見学会として、埼玉県小川町のバイオガスパラントなどの見学(11/24)を予定しています。多数の方の参加をいただき、温暖化防止の取り組みについて理解を深め、私たちの活動に生かしていこうと思っています。



エシカル消費とエシカル投資・グリーン投資でストップ地球温暖化!

～市民活動と企業活動の連携・連動を考える～

温暖化・エネルギー部会 畑元浩

2024年9月21日(土) 10:00～16:00 共愛学園前橋国際大学短期大学部において、令和6年度群馬県環境学習推進事業を群馬県環境アドバイザー連絡協議会温暖化・エネルギー部会の主催で開催いたしました。

I 午前の部 講演 (10:00～12:00)

【講演 1】

「エシカル消費とグリーン投資の基本的な思想や枠組みと近時の社会情勢」

講師：消費生活アドバイザー 本多洋治 氏

カーボンニュートラル、ESG 投資・グリーン投資、エシカル消費・エシカル金融等についてのお話があり、「人、地域、社会、そして将来の地球環境」に配慮してお金を融通(投資)することが、いかに重要かということが理解できました。

【講演 2】

「企業に対するカーボンニュートラルの取組みへの社会的な要請と対応の状況」

講師：環境カウンセラー(サンデン(株) 監査役) 金子昭一 氏

カーボンニュートラルに向けた国内外の最近の動向、企業のカーボンニュートラルへの取組みの開示状況等についてのお話があり、「地球沸騰化と言われる」時代となり、気候変動リスクへの対応としてカーボンニュートラルがいかに重要であり、今後企業活動を実施するにあたり、必要不可欠な取組みとして実施していかなければならないことが理解できました。



《写真. 講演会》

II 午後の部 ワークショップ (13:00～16:00)

午後は、脱炭素まちづくりカードゲームを環境 SDG s ファシリテーター 西村豊氏・角田正基氏・尾崎望良氏の進行で、15名プレイヤーの参加により実施しました。

真夏日・猛暑日が9月になっても続いている昨今、脱炭素の必要性に多くの方々に関心を持ち、理解も進んできています。そうした中、温室効果ガスの削減には個人一人ひとりの意識が重要ですが、行政・事業者、各種団体など社会全体で取り組んでいかなければ達成が困難であることを、この脱炭素まちづくりゲームを通して共有することができました。

CO₂ 65%削減を達成!



《写真. ゲームの様子》

環境フォーラム 2024

～新たな目標に向かう第一歩～

前橋市 上田優希

11月2日（土）10:00～15:00まで群馬県庁にて第13期発足後初めての環境フォーラムを開催しました。午前の部は個人、団体で活動されている方と各部会・委員会の代表者による発表を行いました。

【口頭発表】

櫻田 稔氏	自然共生サイト「里山の花畑と崇台山の山麓」について
高木 優羽氏、田村 彩紀氏	高崎市南八幡地区における農作業を通じた持続可能な地域連携活動 ～萩原ゼミ 2024～
上田 優希氏(自然環境部会)	動き出した自然環境の取り組み
上野 和泉氏(ごみ部会)	ゴミ部会の活動～紹介と今後の展開いかに？～
本多 洋治氏(温暖化・エネルギー部会)	「温暖化・エネルギー部会」の活動紹介
酒井 義明氏(広報委員会)	余力のある人、ぜひご参加ください

口頭発表では各ゼミや個人で活動されている方、部会・委員会の活動内容や今後の展開などについての発表がありました。現地視察や現地で体験をしている部会が多く、また定例会を通して勉強会を開いているなどの報告があり、今の環境にどう対応していかなければならないか考える時間になりました。また、個人で活動されている方は地元の方との連携をし活動をしていきたいという思いが多くあり、今回参加されていた環境エコカレッジの受講者にも活動内容を知っていただける発表になりました。



写真 1 発表の様子

お昼の時間では、活動内容をポスターにまとめ展示されているブースを見る時間が設けられ、多くの傾聴者の方が耳を傾けていました。



写真 2 傾聴者の様子

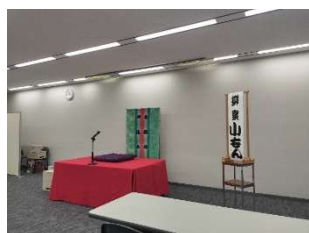


写真 3 落語の演題

午後には、落語家の柳家小もん氏をお招きして、「江戸時代の生活について」と題して口演していただきました。

落語を通して、今の時代は江戸時代とは違って、無駄なことや、余分なことが多く、どうしたら減らすことができるのか考えて行動しなければいけないことや、今では考えられないことをやられていたことが分かり、落語を聞いたことがない方でも楽しめる会でした。

口演の後は代表、各部会・委員会の長の方に登壇してもらい意見交換会を行いました。議題は様々ありましたが、その中でも人はどうしたら行動に移すことができるのかについて、今の世代よりも若い方に深刻さや現状をを実感できるように育てていく、班で話し合ってもらうなど、多くの意見が出ました。

新しい期になってはじめての環境フォーラム。これから各部会ゼミなどがどのような活動になっていくのか楽しみな、そして、改めて、環境について考えることができる良い時間になりました。

金山カラタチ沢整備活動

太田市 松本朝子

群馬県太田市にある金山は、山頂の金山城址や子育て呑龍様（大光院）などの文化遺産とともに、自然が残る山でありながら市街地に近く、地元の人々に親しまれています。

この金山の南麓にある、松風砂防ダムとカラタチ沢の周辺環境を、土中環境から改善し通気浸透水脈を保てるような整備を行っています。

【松風砂防ダム前】



2021.2.22

土砂が堆積し水位は低く、水は潜って土壌はグライ化していた。

2024.6.14

土砂上げと杭打ちとしがら作成を実施。断面からの通気浸透を促し水量が増した。

【カラタチ沢の川岸】



2024.5.18

このままにすると土砂が少しずつ流れ、水位が下がっていく

2024. 7.16

しがら作成2か月後土砂流出が抑えられ、水量も良好。植物も茂っている



2024/9/19 整備作業の様子



2024/9/19 しがら作成後の様子

しがらには、主にその場にあるものや金山周辺の倒木の枝・落ち葉を拾い集め、使っています。枝葉をしがらみ、護岸にすることで、雨落ちがゆっくり浸透し、土の表面を湿润に保ちます。そこにはたくさんの微生物・菌類・虫などが生息し、その生物を鳥やカエル、蛇などの小動物が狙ってやってきます。そして、生物多様性が豊かな水辺環境へ戻っていくことができます。また、しがらで覆った部分は土砂の流出を防ぎ、土壌は崩れず澄んだ水が湧き出すようになり、水と空気が循環する良好な土中環境を保ちます。

活動を通して、本来の自然な環境とはどういう状態か、地に足をつけて学びながら、地元民自身が手入れする輪を広げたい、という思いで活動しています。

未来の子どもたちへ日本の風土を受け渡していくため、一緒に活動して下さる方をお待ちしています！

○群馬県太田市金山町 松風砂防ダム周辺

○毎月第3木曜日（10:00～15:00）を中心に活動中

詳しくは、こちらのページで活動の紹介やお知らせ、申し込みを受け付けています→



MATSUMOTO.ASAKO

エコ・クッキングセミナーの開催報告

共愛学園前橋国際大学短期大学部 食育研究会 木村 祐美

8月18日、共愛短大を会場として親子対象の「エコ・クッキング」セミナーを開催しました。エコ・クッキングとは、身近な食生活からはじめるエコ活動で、環境を思いやりながら「買い物」「調理」「食事」「片づけ」をすることです。食生活には、水・ガス・電気などのエネルギー、食品ロス、ごみの問題等の様々な環境問題につながる課題があります。セミナーでは、身近な環境問題を食生活から考えることを中心に、段ボールとアルミ蒸着シートを利用した簡易なソーラークッカーで、ゼロエネルギー調理に挑戦しました。2時間ほどのソーラークッカー加熱でカレーライスと目玉焼きが出来上がり、災害時にも応用できることを学びました。

参加者は、太陽光で目玉焼きが焼けたり、カレーが80℃位まで加熱されたりすることに驚き、太陽光エネルギーの活用に興味をもってくれました。また、親子で楽しく調理しながらの学習は食育の一助にもなり、楽しい時間を過ごすことができました。夏休みの自由研究として、家庭でも実践してみたいという感想もありました。来年度もエコ・クッキングセミナーを開催し、食生活から環境を考える活動を続けたいと思います。



【編集後記】

この秋は、県庁を会場とした「環境フォーラム」や「ぐんま環境フェスティバル」をはじめとして、県内各地で様々な環境に関わるイベントが開催され、私は「ぐんま環境フェスティバル」において環境サポートセンターのスタッフとして参加させていただきました。

その環境サポートセンターのブースでは、動く環境教室で使用している「温室効果ガスを全く出さない再生可能エネルギーを活用した様々な発電装置」を見て触って体験できるコーナーとして、たくさん子ども達とその家族、そして他ブースの出店者を含めた一般の方々に体験してもらうことができました。

私自身、群馬県公認環境SDGsファシリテーターになる以前から、自然体験活動の講師として県内の小中学生を対象とした自然体験活動の指導に携わっていますが、普段インターネットでいろいろなことを調べていて知識や情報をたくさん持っている子どもも、観たり聴いたり触ったりと諸感覚を使った体験活動では目を輝かせながら体験を楽しんでいます。

こうした体験は、人間の成長にとって「生きる力」や「豊かな心」を育む上で大切なことであると言われていますが、私たち大人は今の子ども達の未来のために「2050年までにカーボンニュートラル社会の実現」を目指すだけでなく、子ども達の体験の機会を充実させ、将来の夢とか希望、あるいは自己肯定感などを今を生きる子ども達が持てるようになってほしい、と私は願っております。

広報委員会副委員長 角田正基

GNの発行予定および問い合わせについて

グリーンニュース（GN）は年4回発行します。掲載したい原稿などございましたら下記にご連絡ください。

群馬県 環境政策課 環境政策係 環境サポートセンター 角張

〒371-8570 前橋市大手町一丁目1番1号

TEL 027-226-2827 FAX 027-223-0154 E-mail: kakubari-toshiaki@pref.gunma.lg.jp